

2012 年度 サケの秘密探検隊 実施報告レポート

近年、地球温暖化などの環境問題が顕在化し、これら環境に関する諸問題を学び、解決する道筋を探る「環境教育」が必要と考え 2006 年に環境教育プログラム「サケの秘密探検隊」を開始する。

北海道という自然に恵まれた地域においては、自然風土との「共生」が大切である。自然保護一辺倒ではなく、自然と人間の生活を調和させて、自然生態系を守りながら資源を持続的に利用することが重要である。

こうした視点から、北海道を代表する環境資源「サケ」をテーマに体験学習を実施し、自然と共生する暮らしの豊かさを子どもたちに考える機会を提供している。

サケの秘密探検隊は、大きく 3 つの活動からなっている連続型の体験学習プログラムである。メインフィールドは、八雲町遊楽部川流域である。1 回目は、サケの遡上と産卵の観察から、命をつなぐ行動を学ぶ。2 回目は、サケの死骸（ホッチャレ）とオオワシの観察から、死について学ぶ。3 回目は、サケの稚魚の観察から、命の誕生を学ぶ。

さらに、今年度は前田一歩園財団より支援を受けることが来たので+αとして特別編、流氷の学習を加えて実施した。川を下ったサケが回遊するオホーツク、ベーリング海とオオワシが飛来先であるシベリアを学び、知床の自然遺産についても学習した。

2012 年 11 月 10～11 日「サケの川のぼりだぁ」

遊楽部川でサケの捕獲場、サケの遡上、産卵後にホッチャレとなったサケを観察しながら、海から森への栄養（物質）を運ぶサケの重要な役目について講習を受ける。「なぜ、サケは川をのぼるのか」をテーマに観察したり、さわってみたり、においを嗅いでみたりしながら、自然と共生することを考えた。

また、サケ（銀ケ、ブナケの 2 種）を自らの手でさばき、調理して味比べや、その違いの理由を考えることでサケへの関心を高める。同時に、郷土料理を味あうことで、郷土愛も深めた。

2012 年 12 月 22～23 日「オオワシを見に行くぞ！」1 泊 2 日

サケが海から運んだ栄養がどのように循環するのかを観察し、ホッチャレの臭いや川の様子などから、物質循環のメカニズムを体感させた。オオワシなど希少な動物を見ることで、自然の大きさやすばらしさを体感し、環境保護の心を育む。野鳥の観察方法について講習を受け、野鳥の性質や自然を知り、観察マナーを守る意識をも育んだ。

また、八雲町内にて宿泊し、雪遊びを通じて北海道の冬を感じ、その中で生きている動植物たちへの関心を高めた。

2013 年 2 月 9～11 日「サケの秘密探検隊 流氷のなぞを解明だぁ」2 泊 3 日

サケが海から運んだ栄養について学習してきたが、今回は森の栄養がどのようにして広

範囲な海へ循環していくのかを流氷を教材として学習した。流氷観察し、流氷の下の海底の様子を体感的に学び、物質循環のメカニズムを体感。森の栄養が海に行く過程を学ぶことで自然界のサイクル、流氷の仕組みや自然界に対する影響など物質循環メカニズムを学習、環境保護の心を育んだ。

2013年3月23～24日「サケの秘密探検隊 サケの赤ちゃんをみたい？」1泊2日

春になって孵化したサケの稚魚を観察し、命の循環を学ぶ。また、河畔林も観察し、その役割や、サケがもたらす栄養をどのように利用しているか学ぶ。さらに、前回までの学習を振り返り、まとめあげ小冊子を作りあげた。形を残すことで環境問題へ取り組んだことへの充実感を得て、日常生活でも環境について意識できる心を持ってもらった。



